



博多大丸・九州探検隊 環境共生の取り組み

～2025年クリスマスツリーの事例について～

株式会社博多大丸 九州探検隊

報告日：2026年3月18日

目次

- 01 わたしたちについて
- 02 概要
- 03 経緯
- 04 目的
- 05 取り組み①ツリー造成・展示
- 06 取り組み②自然共生サイトの情報発信
- 07 成果
- 08 協力団体一覧
- 09 総括

わたしたちについて

JFRグループが2030年に目指す姿

環境・社会課題の解決とと企業戦略、事業戦略の一体化をはかる「CSV（Creating Shared Value:共通価値の創造）」の実現を目指しています。

CSV（Creating Shared Value:共通価値の創造）実現のための3つの柱



感動共創 顧客や従業員と共に感動を生み分かち合う

地域共栄 地域にとって必要不可欠な存在となる

環境共生 環境と共に生きる社会づくりに誰もが貢献できる文化を根付かせる

わたしたちについて

株式会社博多大丸について

福岡の「地元百貨店」として、新しい地域共生のプラットフォームを目指しています。



新しいこと、あなたらしいこと、福岡天神から

株式会社博多大丸は、J.フロント リテイリング グループにおける九州地区の拠点であり、株式会社大丸松坂屋百貨店の関係店。福岡の百貨店では、唯一地元資本が入る福岡の「地元百貨店」です。

大丸福岡天神店は、地元 roots、地域社会と共生して お客様のお役に立つ事こそが提供価値と考え、新しい時代の心豊かな生活を実現するためのプラットフォームになることを目指し、変化する時代に対応した「新しい百貨店のビジネスモデル」の構築に向け、柔軟な発想でチャレンジを続けています。



企業情報

所在地 : 福岡市中央区天神1丁目4番1号
電話番号 : 092-712-8181
設立 : 1952年(昭和27年)10月28日
資本金 : 30億3,750万円
代表取締役社長 : 村本 光児
売上高 : 541億3,806万円[2023年度2月期]
従業員数 : 320人[2023年度2月期]

2023年創業70周年を迎えました



わたしたちについて

九州探検隊について

株式会社博多大丸の創業65周年事業として2018年6月に発足した地域社会との共生プロジェクト。九州・沖縄の119市を訪問し、活動にご賛同いただいた自治体、各地域の素晴らしい事業者、生産者の方々と、物産・観光・SDGsを中心に、連携を活かした様々な取り組みを推進しています。



アンバサダー認定（2026年2月末時点）

117市／119市



記念すべき第一号目のアンバサダー認定自治体
大分県日田市（2018年6月13日）

わたしたちについて

環境共生の取り組み ～ 商業空間を社会課題発信のメディアへ ～

私たちが毎年クリスマスシーズンに設置してきた大きなツリーは、
今では期間中220万人が訪れるクリスマスの天神のシンボリックなツリーとなっています。
この集客力や発信力といった、百貨店であるわたしたちのもつ強みを活かし、
環境保全の必要性についてツリーを通じて伝える活動を継続して行っています。



わたしたちについて

2022-2024年のツリーの取り組み

2022年「White Bless Christmas」：対馬に漂着した海洋ごみを使用し、対馬に咲くヒトツバタゴの花をイメージした白いツリーに。一見美しいツリーをごみで彩ることで環境問題を可視化。

2023年「CIRCULATION」：廃プラスチックをアップサイクルしたフラワーポットをメインアイコンに使用。「リサイクル循環型社会」を表現。

2024年「Change」：対馬で絶滅危惧種の蝶の保全活動を行う高校生たちと共創。蝶をモチーフに、生物多様性の保全と行動変容の必要性を啓発。



概要

2025 大丸福岡のクリスマスツリー ～Legacy 未来に続く、いのちの光～

実施期間：2025年11月8日(土)～12月25日(木)

開催場所：大丸福岡天神店エルガーラ・パサージュ広場

目的：

・ 来場者にとって環境保全の啓蒙につながる クリスマスツリーの造成・展示

・ 「自然共生サイト」についての情報発信・認知度向上の促進

協力：

- ・ 田島山業株式会社
- ・ 立命館アジア太平洋大学サステナビリティ観光学部
- ・ 朝日テクノ株式会社
- ・ NPO法人唐津ファームアンドフード
- ・ NPO法人水辺に遊ぶ会



2025テーマ設定の経緯

- 2025年前期、「やまが和栗の里」と株式会社博多大丸が環境省より「自然共生サイト」の認定を受ける
- 認定式で九州・沖縄の認定団体とのつながりが生まれる
- 「自然共生サイト」の取り組みを広く伝えたいと考える
- 例年実施している環境保全の啓蒙につながるクリスマスツリーの展示に着目
- 5月のシンポジウムで田島山業株式会社の講話を聴講
- 田島山業株式会社を訪問し、間伐材を活用したツリー造成することに決定



今年度取り組みの概要

【参考】大丸クリスマスツリー2025: <https://www.daimaru-fukuoka.jp/contents/christmastree/>

①ツリー造成・展示

- 「切らない林業」を掲げる田島山業の間伐材を使用
- 「生物多様性の保全」・「自然との共生」をテーマにした空間デザイン
- 立命館アジア太平洋大学のインターンシップ生によるオーナメントの考案

②九州・沖縄の「自然共生サイト」の情報発信

- ツリー設置会場でのパネル展示、同内容のWEB発信
- ツリー点灯式で事業者登壇のPRイベントを開催、
- 同日に会場内で事業者のPR動画放映
- 立命館アジア太平洋大学のインターンシップ生による実地研修と情報発信

①ツリー造成・展示

✔ 「切らない林業」を掲げる田島山業の間伐材を使用

- 環境省シンポジウム後、田島山業を訪問し、「断固、森を守る」哲学に共感。
- 例年の1本のモミの木を活用したデザインを一新し、間伐材を組み合わせたツリーに。
- ツリーハウスのように中に入れるようにし、「新鮮な木の香り」を体感できる設計に。
- 例年以上に、親子連れを中心にフォトスポットとしての注目を浴びた。



①ツリー造成・展示

✔ 「切らない林業」を掲げる田島山業の間伐材を使用

- 環境省シンポジウム後、田島山業を訪問し、「断固、森を守る」哲学に共感。
- 九州探検隊ブログ掲載：<https://www.daimaru-fukuoka.jp/kyushutankentai/activity/detail/?cd=000380>



①ツリー造成・展示

✔ 「切らない林業」を掲げる田島山業の間伐材を使用

- ・ ツリーハウスのように中に入れるようにし、「新鮮な木の香り」を体感できる設計に。



①ツリー造成・展示

✔ 「生物多様性の保全」「自然との共生」をテーマにした空間デザイン

- ツリーの周辺に森をイメージさせる植栽を配置し、生物多様性が保たれた環境を表現



①ツリー造成・展示

✔ 立命館アジア太平洋大学のインターンシップ生による オーナメントの考案

- 計5カ国の学生たちがミーティングを重ね、生物多様性を訴えかけるモチーフとして「折り鶴」を提案



②自然共生サイトの情報発信

✔ ツリー設置会場でのパネル展示、同内容のWEB発信

- 48件中、37件の「自然共生サイト」がパネル・WEB掲載でのPRを希望
- 九州探検隊ブログ掲載：<https://www.daimaru-fukuoka.jp/kyushutankentai/activity/detail/?cd=000382>



②自然共生サイトの情報発信



ツリー点灯式で事業者登壇のPRイベントを開催、
同日に会場内で事業者のPR動画放映

- 点灯式PRコーナーに6事業者が登壇、会場内で6事業者がPR動画を放映



②自然共生サイトの情報発信

- ✔ 立命館アジア太平洋大学のインターンシップ生による実地研修と情報発信
 - 合計4件の自然共生サイトをフィールドリサーチで訪問し、そのレポートをパネルで展示
 - 点灯式イベントにて、インターンシップでの経験について発表



②自然共生サイトの情報発信

✔ 立命館アジア太平洋大学のインターンシップ生による実地研修と情報発信

- ・ 合計4件の自然共生サイトをフィールドリサーチで訪問し、そのレポートをパネルで展示

九州探検隊ブログ：<https://www.daimaru-fukuoka.jp/kyushutankentai/activity/detail/?cd=000381>



②自然共生サイトの情報発信

- ✔ 立命館アジア太平洋大学のインターンシップ生による実地研修と情報発信
 - 点灯式イベントにて、インターンシップでの経験について発表



成果

- 会場パネル展示・情報提供希望：37件
- 点灯式PRコーナー登壇：6件
- 点灯式会場 動画放映希望：6件
- インターンシップ生応募者数：27名（うち6名を選抜）
- ツリー設置期間来場者数：約200万人（11/8～12/25）
- マスコミ取材：8件（TV中継1件、雑誌掲載2件、新聞掲載5件）※WEB媒体除く

<波及効果>

- 認定団体同士の新たな接点創出 -ステージイベント
- 自治体・企業からの前向きな反応 -長崎県佐世保市、佐賀県太良町、佐賀県嬉野市、MRT宮崎放送
- 「自然共生サイト」への関心向上

<ヒアリング情報>

- 自然共生サイト同士をつなぐイベント構想
検討団体－MRT宮崎放送、佐賀県自治体
- 認定をブランディングに活かしたい団体

唐津F&F、山川町漁業協同組合、阿蘇さとう農園、たのしい農家お百笑さん

協力団体一覧

【協力】

田島山業株式会社

朝日テクノ株式会社

NPO法人唐津ファームアンドフ
ード

NPO法人水辺に遊ぶ会

【教育連携】

立命館アジア太平洋大学

サステイナビリティ観光学部

【協賛】

<自然共生サイト認定事業者>

朝日テクノ株式会社

西部ガスグループ

東洋紡株式会社

山川町漁業協同組合

うーたの会

日本製鉄株式会社

MRT宮崎放送

<企業>

株式会社ビッグアップル

彩ユニオン

松陰塾

サンリッチ

ライトハンズ

株式会社上場食肉

他



総括

- 商業空間を通じて、環境保全と自然共生を伝える取り組みとなった
- 自然共生サイトへの関心喚起につながった
- 多様な活動者同士をつなぐきっかけとなった